編集後記

もう蝉が世界に帰って来た。

今回ゲストとして
青木由弥子
小川三郎
古溝真一郎
各氏に、〈平成回顧〉をご執筆いただいた。感謝の限りである。
またレギュラー陣も
力作をそろえた。
ご笑覧いただければ幸いである。
　＊
平成が終わってもう５年も経とうというのに
「平成詩史」の一つや二つ出てこないのは
批評の怠慢である。もっともまあ出てきたって、思潮社出版史や、
受賞詩集史みたいなものしか出てきそうになく、そういうものを並べて
見渡したって所詮何も生まれてこないから、期待はできないが。
そう思って、〈おれたちの時代〉で始めようと思った。
　＊
最初、共著の形で詩史の概略を作ろうとして
十数人の信頼できる書き手たちに〈平成時期に重要だと思う詩集は？〉
とアンケートを採り、大まかな領域を知ろうとした。
さまざまな詩人たちの名前が挙がったが、
しかしそれを元にして詩史書を書き進めると想定したとき、

それぞれの思いを抑えつつ、なだらかに見える妥協点を見出すことの難しさと無意味さを感じ、まずは自分自身でたたき台を作るべきだろうという風に変わっていった。
それと並行して、各人の〈平成詩史疾走記〉を是非知りたいと思ったのだ。

＊

今回書いてくれた詩人たちの他に
　荒川純子と廿楽順治とマルコム・シャバスキーは詩誌「Lyric　Jungle」に、中村剛彦と豊原清明には本誌バックナンバーに個人詩史あるいは平成詩回想記に相当するものをすでに掲載いただいている。

＊

次号も次々号も夏である。
季節の熱を凌駕して我ら生きんとす。